

■全国研究部門等の活動紹介■

教育心理部門の紹介

杉森伸吉・糸井尚子・犬塚美輪

1. 組織と運営

教育心理部門では、日本教育大学協会の目的「会員相互の協力によって、大学・学部の質的向上と教育に関する学術の発達を図り、もってわが国教育の振興に寄与すること。」(<http://www.jaue.jp/gaiyou.html>) に従い、各加盟大学の教育心理部門に属する教員によって、相互の連絡をはかり、教育に関する問題意識を共有し、教育心理学によって教育に貢献するために、大学での教育や教育に資する教育心理学研究を進めるよう、連携して努力している。

2. 活動の内容

(1) 日本教育大学協会教育心理部門会合

毎年1回、加盟50大学の教育心理部門の代表者によって日本教育大学協会教育心理部門会合を行っている。議題は、

- ① 各年度の活動報告
- ② 各年度の会計報告
- ③ 各年度の全国研究部門代表者連絡協議会の報告
- ④ 各年度の係分担（代表・副代表・事務局）（年報査読者の推薦）
- ⑤ 各年度の活動計画

など。会合の半分くらいの時間をかけて、各大学の現状や問題意識の報告を行ってもらい、情報共有を図っている。

(2) 各大学でのアンケート調査の実施

教育心理部門会合では、各大学での教育心理学の加盟大学での教育研究についての現状の共有などを積極的に行っている。そこで出された問題については、加盟全大学の教育心理部門にアンケートを実施して、集計を行い、その結果を各大学へ持ち帰ってさらに検討を行っていただくようにしている。

また、各大学での教職課程などで、教育心理学を専門とする学生の教育の現状などについて、あるいは、各大学で、スクールカウンセラー養成のための公認心理師、臨床心理士など、また、教育心理学を卒業後、教員として学び続けるための研修などを行っている学校心理士など心理学関連の諸資格の教育についての各大学の現状の共有などを行ってきた。

(3) シンポジウムの開催

これらの議論を踏まえて、日本教育心理学会において、日本教育大学協会教育心理部門として、シンポジウムの開催を積極的に行ってきた。時には、自主シンポジウムとして、また、日本教育心理学会総会の準備委員会との共同開催として、行ってきた。

2012年「心理学を活かした教員養成」

2013年「心理学を活かした教員養成(2)」

2014年「心理学を活かした教員養成(3)」

2016年「教育心理学界でのアウトリーチはどうあるべきか—学校現場への貢献や諸資格への取組について—」と題して、シンポジウムを開催しました。そこにおいて、教育に関する実践研究および教員養成に関する事例報告を行い、教員養成において心理学の果たすべき役割について検討した。また、心理学の諸資格についての教育についての教育や研究についての検討を行ってきた。

いずれも多くの参加者にお集まりいただき、関心の深さをあらためて実感すると主に、議論を深めることができた。

3. 今後への展望

日本の教育は現在、大きな変換点を迎えていると考えられる。アクティブラーニングの浸透、新しい学力観の展開、教育のバリアフリー化、AI時代への教育の大きな変革、また、チーム学校の実現、教員の働き方の改革など、教育心理部門でも諸問題について今後も貢献することが望まれる。

教育心理部門では、各大学の参加会員で情報を共有し、連携を深め、問題意識を掘り下げ、新しい研究と教育実践に貢献できるよう展開していきたいと考えている。